

文学館だより

平成29年11月1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文 責 日 高

朝の山日を負ひたれば溪音の冴えこもりつつ霧たちわたる
大正6年11月作 埼玉県秩父への旅を歌った「秩父の秋」の冒頭歌 『溪谷集』より

伊藤一彦県立図書館名誉館長 短歌雑誌「創作」の魅力語る

牧水創刊の短歌雑誌『創作』の県立図書館寄贈については、以前『文学館だより8月号』にて紹介したとおりです。その寄贈を記念して講演会が開催されました。

早稲田大学を卒業してまもなく、東雲堂の西村辰五郎より短歌雑誌創刊を持ちかけられたのをきっかけに『創作』は誕生します。牧水を歌人としていち早く見抜いていたのが辰五郎だったのです。『創作』というタイトルをつけたのも牧水であろうと伊藤先生は付け加えられました。

伊藤先生は、『大震大火記念号』（大正12年10月号）と『若山牧水追悼号』（昭和3年12月号）を特出、特徴を熱く語られました。「追悼号は真っ先にぜひ読んでほしい」と繰り返し、締めくくられました。

明治43年3月に第1巻第1号が創刊されてから平成29年の今、第104巻を重ねています。現在は牧水のお孫さんの手により牧水の意味は引き継がれています。



10/7 県立図書館にて

文化の秋到来

市内小学生で文学館大にぎわい



牧水母校坪谷小学校3～4年生
「初めて知ったことがありました」と、驚きと喜びを表現するつぼやっ子たち。牧水先生を尊敬してやまないつぼやっ子の顕彰活動がもっともっと全国に広まりますように....



財光寺小学校4年生
展示パネルを見て一生懸命写し取る姿には感心しました。今回の学習が今後の調べ学習の一助になればうれしいですね。牧水の小学校時代と言えば、夏の川遊びの際、友だちは着物を脱ぎ捨て我先に飛び込む中、牧水はひとり下駄をそろえ、着物、帯の上に押さえの小石まで置いてから川に入るほど几帳面であったという有名な話がありますね。



大王谷小学校3年生
先生のお話によると、牧水への取り組みはまだまだこれからなのですが、牧水かるたのCDに合わせて歌をよむことを手がかりとして今後学年全体で取り組まれるとのこと。2年後、3年後の牧水かるた大会が楽しみです。

暑竹の伸びゆくごとく子ども等よ真直ぐにのばせ身をたまひを

今月も美々津小学校3～5年生が見学予定です。子どもたちをはじめ、県民市民の皆さま方に、郷土の歌人若山牧水に触れていただき、発見、感動、喜びを味わっていただけたらと思っています。現在、常設展示室には従来の展示品に加え、牧水が愛用した座机、筆等も展示しています。また、企画展示室においては、『秩父の旅』のテーマのもと第12歌集『溪谷集』収録の短歌を紹介しながら、埼玉県秩父の秋の風景をお楽しみいただきます。（11月11日～12月28日） ご来観お待ちいたしております。

後輩の子らが短歌と詠みてゐる母校に秋蝶となりて舞ひ来よ

今日は坪谷小学校で特設の短歌の授業だ。坪谷小学校は言うまでもなく若山牧水の母校である。牧水が卒業したのは今からもう百二十年以上前だが、児童たちは「牧水先生」を尊敬している。今日の授業は「牧水先生」の幼年時代を話し、児童全員（12名）の短歌を批評することである。前もって送られてきた作品はレベルが高い。さすが牧水作品を日ごろ学んでいるだけある。

（ふらんす堂 伊藤一彦短歌日記 10月11日より）

10月11日、坪谷小学校で伊藤一彦館長による授業が行われました。つばやっ子たちの伊藤先生を見つめるまなざしに圧倒されながら、私も先生の話に吸い込まれていきました。

牧水との共通点

- ① 誕生年
 牧 水 明治 18 年
 伊 藤 先 生 昭和 18 年
 伊藤先生のお孫さん 平成 18 年
- ② 大学入学年
 牧 水 明治 37 年
 伊 藤 先 生 昭和 37 年

伊藤先生のお孫さんは、
今年の夏休み、毎日短歌を
詠んだそうですよ

ちなみに二人とも早稲田大学。
果たして偶然なのでしょうか。

エピソード紹介

大正の頃、阿蘇を旅していた牧水は、とある茶店でみかんを買います。一番しなびれた、きっと売れ残るであろうみかんをわざわざ選んで買います。（ここで、先生はみんなに問いかける）お客があまり来ないであろうと思われる店なので、売れ残っては店主のおばあさんが困るだろうと、おばあさんを気遣う牧水の優しさが表れている話でした。



伊藤先生の牧水像

「牧水は、夢を追い続けた人」と断言。まさにそれを詠ったのがこの歌でしょう。

けふもまたこころの鉦をうち鳴しうち鳴しつつあくがれて行く

短歌講評

はじめてだびあののなかをみてみたらきのぼうげんをたたいてなるよ
 いがぐりがいっばいおちるちくちくとでもおいしいよやいて食べたら
 ひがん花きれいにそだつ赤色にほどけをのせて風でゆらゆら
 五色朱わたしとならんでせいくらべ大きくなってせをこされるかな
 ひいばあちゃんきゅうりに乗ってやってきてなすびに乗って帰るよまたね
 つゆの時期かえるがびよんととんでいた雨の日やっばり気持ちがいいのね
 夏の花あさつゆはらって「おはよう」とパッとひらいた花びらげまん
 運転手気にせず走らすスクールバス乗っていません私と兄ちゃん
 外に出るひゅーっと涼しい秋の風とっても楽しみくりなしぶどう
 夏の川のぞいてみると魚たち流れに乗ってすいすいすいと
 川遊び小魚いっばい泳いでる気持ちがよくて暑さ忘れる
 秋の風役目を終えた扇風機また来年の夏までおやすみ

1年 上田 容平
 2年 後藤 颯介
 3年 那須 陵太郎
 3年 三浦 柚希
 4年 荒木 アマリ
 4年 黒田 紗良
 4年 那須 みらい
 4年 山床 心晴
 5年 那須 信太郎
 5年 稲田 百華
 6年 上田 修三
 6年 河野 幹雅

伊藤先生が「レベルが高い。」と絶賛するのもうなづけます。柔軟な発想、巧みな表現、対象物への共感、さすがです。12名の牧水先生の後輩たち、おそろべし。

雑感

先日、一年ぶりにお客様から2度目の電話をいただいた。牧水に関する問合わせであった。しかし、私は即答できず、文献をひもとき改めて回答した。勉強不足を痛感しへこんでいた私であったが、お客様は「文献に基づき、正確に伝えてくれた。相手を大切に思っている。」と勿体ない言葉をくださった。『お客様一番、おひとりおひとり心をつないでいく』 いつもお客様から元気をもらっている私である。